

より多くのなかまを職場で迎えよう

2022年3月20日号  
第232号

毎月2回5日・20日発行

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合  
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359  
URL : https://kokkoroso.or.jp/  
発行者：山崎 正人  
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)



2022年3月20日 国交労組 第232号(通巻1388号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可

# 国交労組

# 新しいなかまがやってくる

## すべての新規採用者へ 組合加入の声をかけを

みなさんの職場では、4月の新規採用者が入省することを楽しみにしているのではないだろうか。国土交通労組として、新しいなかまを組合に迎え入れる大切な時期です。新たななかまと一緒に要求実現にむけたとくみを行うことは、私たちのさらなる力になります。ぜひ、新規採用者を歓迎するための準備をすすめましょう。

### 3か年計画の 具体化・準備を

各支部は組織拡大強化3か年計画を策定し、早期に1万人の組合員を達成することを目標に、奮闘しています。

まずは、支部で得意な点の抽出、あわせて得意な課題を見つけておくことが大切です。得意な点は伸ばし、他支部にも広げられるようにすると同時に、不得意な点について、どのような課題があり、どう乗り越えていくのかを熟考し、一歩ずつ前進につなげる議論が必要です。

先月の中央委員会でも報告していますが、四国運輸支部では、自動車検査業務にたずさわる自動車検査官の組織拡大のため、支部独自でパンフレット「よくわかる！自動車技官と組合の関係」あなたを守るのは組合だけです」を作成しています。

### また、東北気象支部で 支部執行部内での議論 をふまえ、「まずは組合活 動を知ってもらうことが 重要」との視点に立ち返 り、長期休刊となってい た「東北支部ニュース」 を復刊しました。

航空部門では、本部主導による航空保安大学卒業予定者を対象に、オンラインによる組合説明会を開催し58人の参加がありました。現場配属の際は、各支部・分会における確実な声かけをお願いします。

これから具体化をしていくという支部は、3月中に準備をすすめましょう。

### 組織拡大グッズを 声かけに活用

今年、小冊子「We are Kokkoroso」を改訂しました。新規採用者と同世代の人たちの声を掲載するなど、親しみやすい内容となっ

訴える人が学習する際に威力を発揮します。

### 分会を中心に 拡大・強化を

新しく職場のなかまになっており、加入の声かけが気軽にできるものです。声かけは、できるだけ世代が近い人が行うことが望ましいと思いますが、同世代が職場にいない場合は、役員が声をかけることが大切です。

このほか、国公労連作成の小冊子「Join us」も各職場に配布しますので参考してください。また、「With You」は、制度問題について記載している冊子です。新規採用者に加入を

アピールを積極的にすすめましょう。

各職場で全員加入をめざし、計画を具体化してとりくみをすすめましょう。

### 待っている人が 必ずいます

配属されたばかりで、新規採用者は不安なこともあるでしょう。こうしたときに、まずは職場の「庁舎案内」などについての話をすると親しみを

得られると思います。が、今春も新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、直接話をすることをめざし、困難な場合は、お手紙やメールなどで、組合の

のかをつまつくみながら、声かけを旺盛に行いましょう。

コロナ禍において、現時点ではレクリエーションや、歓迎会が困難な場合も予想されます。しかし、組合にはいつか良かった、と感じることに交流があることも事実です。可能な限り、交流会やランチ会などを追求する

とともに、オンラインを使つての組合説明会なども計画しながら、一人でも多くの人に組合の大切さ、良さを知ってもらいましょう。

新たに国家公務員になって、希望に燃えている新規採用者のみなさんを組合に迎え入れるのは、職場の組合員です。あなたの声を待っている人が必ずいます。力を出し合つて、すべての新しいなかまを組合に迎え入れるようにがんばりましょう。

迷っていても  
はじまらない



なかまに  
なろう

新年度を迎えるにあたり、我が家でも入園式を控え、幼稚園とのやりとりが増えている。しかし、残念ながら、入園にあつての事務連絡が誤つていたりするなど、結構不手際が生じている。私もミスをおかすし、担当者も人間なのでミスを責めるつもりはないが、先輩保護者の声を聞くと、「あそこ幼稚園は事務員の人手が足りなくて、担当者が手一杯。そのため、結構ミスを犯している」とのことだ。これが事実なら話は変わってくる。必要な部署に必要な人員を配置し、担当者に過度の業務負担を与えないなど、組織として適切に対応してもらわないと、保護者や子どもたちに影響を及ぼすのでなんとかして欲しいという気持ちになつてくる。▼同様のことが、国土交通省の職場でもいえるのではないかと。多くの職場では、必要な部署に必要な人員を配置せず、担当者には過度の業務負担を与えている。このままでは、国民生活に多大な不利益が生ずることは明白である。幼稚園とのやりとりをふまえて、国土交通労組がとりくんでいる体制拡充などのとりくみの結果を再認識したところである。

(H・T)